FUJIFILM
I&I－Imaging & Information

FUJIFILM NEWS

株主のみなさまへ

DECEMBER 2002 *vol.63*

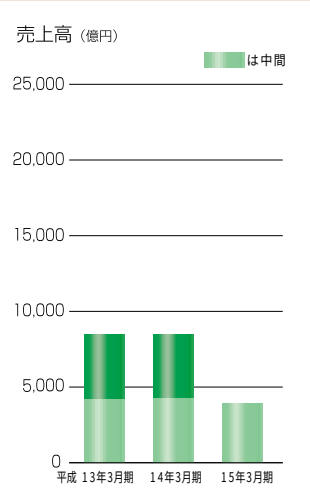
財務ハイライト

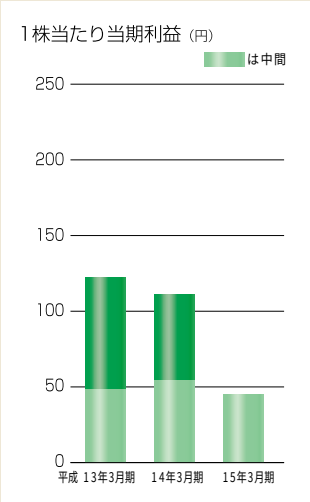
単位：百万円（1株当たり当期利益は除く）

	単独		連結	
	平成14年度中間期	平成13年度中間期	平成14年度中間期	平成13年度中間期
売上高	390,160	424,202	1,249,435	1,171,631
経常利益	41,474	46,409	77,908	89,664
中間利益	23,197	27,832	33,610	46,414
1株当たり中間利益(円)	45.09	54.08	65.33	90.19
資産合計	1,676,173	1,642,105	2,922,611	2,829,967
資本合計	1,450,270	1,412,535	1,692,806	1,656,125

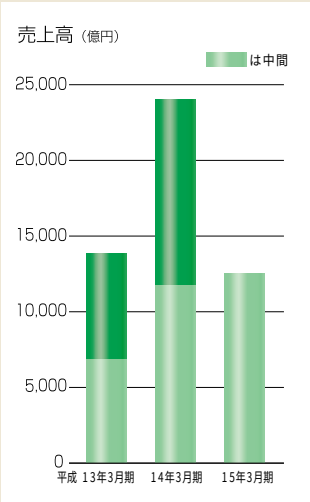
注） ＊連結の表示は、経常利益が税引前利益、中間利益が当期純利益となります。
＊資産合計及び資本合計の金額は、前中間期・当中間期各々の期末の金額です。
＊単独損益計算書におきまして、従来から「販売費及び一般管理費」に含めて処理してきました販売奨励金等の中には、最近の市場における価格競争の激化によって支出が恒常化したことに伴い、その取引実態が売上割戻しまたは売上値引きの性格を帯び、実質的な販売価格の一部となる傾向が顕著になってきているものがあります。このため、当中間期より、営業活動に基づく損益の区分をより適切に表示するため、これらの取引額について、販売費に計上する方法から売上高より控除する方法に変更いたしました。この変更により、従来の方法に比べ、売上高は31,033百万円減少いたしますが、販売費及び一般管理費も同額減少するため、営業利益、経常利益に与える影響はありません。

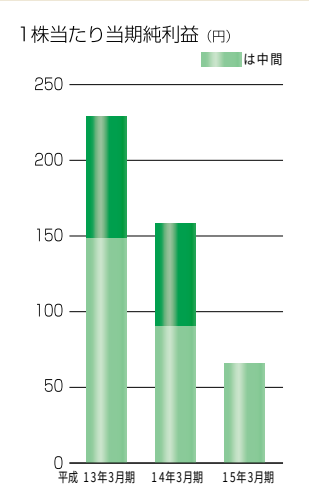
■ 単独





■ 連結





表紙写真／丹地敏明撮影（北海道　大雪高原）

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当中間期（平成14年4月1日より平成14年9月30日に至る）における我が国経済は、一部の経済指標に底入れの兆しが見られたものの、個人消費と民間設備投資がともに低迷し、厳しい状況が続きました。海外におきましては、米国経済は比較的堅調に推移しましたが、先行きの景気に懸念が高まりつつあります。欧州経済はユーロ圏では前半に回復の兆しが見られたものの、欧州の中東部で発生した大洪水の影響もあり、一部の地域では景気持ち直しの動きが弱まりました。アジア諸国の経済は、中国では堅調に推移し、その他の地域でも概ね緩やかな回復傾向を示しました。

このような状況下、富士フイルムは、イメージング、インフォメーション、ドキュメントの各分野において、デジタル・ネットワーク技術を活用したトータルソリューションの提供等、積極的な事業展開を図っております。具体的には、豊富なデジタルイメージングサービスを提供できるデジタルミニラボの拡販、液晶ディスプレイ用部材の生産能力の増強、複写機事業における新技術を採用したデジタルカラー複合機の拡販、高速通信を可能にするグレーデッドインデックス（GI）型プラスチック光ファイバーの新規開発等、事業領域の強化・拡大等に努めました。

当中間期の売上高は単独で3,901億円、連結では1兆2,494億円となりました。利益につきましては、単独の経常利益は414億円、当期利益は231億円、連結の税引前利益は779億円、当期純利益は336億円となりました。

当中間期配当金につきましては、1株当たり12円50銭に決めさせていただきました。

次に連結売上高の部門別の状況をご説明させていただきます。イメージング ソリューション部門においては、2002FIFAワールドカップ™の開催にあわせた各種キャンペーンを実施し、カラーフィルム等の拡販に努めました。デジタルカメラにつきましては、高感度・高画質撮影が可能な「スーパーCCDハニカムIII」搭載の新製品「FinePix F401」がご好評をいただいております。ラボ機器では、ご好評のデジタルミニラボ「フロンティア」シリーズの一層の拡販に努めるとともに、デジカメプリント体験キャンペーンを展開し、写真プリント需要の拡大を図っております。また、2002年9月公開買付けによりジャスフォート（株）の株式を取得いたしました。今後、写真ビジネスでのさらなるデジタル化を進めてまいります。

インフォメーション ソリューション部門においては、印刷システム関連製品では、米国販売会社Enovation Graphic Systems, Inc.を連結子会社としたことで売上高が増加しました。医療診断用製品では、コンパクトなデジタルX線画像診断システム「FCR XG-1」の販売が欧米で大きく伸び、また国内でも堅調に推移しました。産業用材料製品では、液晶ディスプレイ用視野角拡大フィルム「ワイドビューフィルム」が生産能力拡大にともなって大幅な売上増を記録しました。記録メディア製品では、「LTO」等データメディアの販売が好調に推移。新たに「Super DLTtape™ I」データカートリッジを発売いたしました。

＊LTOは、Hewlett-Packard社、IBM社及びSeagate社の登録商標です。
＊Super DLTtapeは、米国Quantum社の登録商標です。

ドキュメント ソリューション部門においては、乳化重合法トナーの採用により、高画質・高生産性と環境負荷の低減を両立し、コストパフォーマンスに優れたデジタルカラー複合機「DocuCentre Color 400CP / 320CP」が、国内において引き続き好調に推移しました。また新たな展開として、同シリーズのアジア・太平洋地域での販売及び欧米のXerox社への輸出を開始したことにより、カラー機の販売増に大きく貢献しました。

当社を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続くものとみられますが、経営基盤のさらなる強化を図り、先進技術を駆使したトータルソリューションの提供を積極的に展開してまいります。また、研究開発・生産・販売・サービスの強力なネットワークを構築し、富士フイルムグループ一体となって競争力の強化と成長を目指してまいる所存です。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年12月

代表取締役会長　大西 實

代表取締役副会長　宗雪雅幸

代表取締役社長　古森重隆

Close up

あらゆる映像シーンに最適な画像を提供する〈超・高画質 デジタル画像処理ソフトウエア〉

イメージ・インテリジェンス

FUJIFILM「Image Intelligence」を市場展開

「イメージ・インテリジェンス」とは、富士フイルムが銀塩写真時代から長年培ってきた「映像をより美しく、お客様の望む仕上がりを実現する」技術を集大成した“超・高画質デジタル画像処理ソフトウエア”の総称です。今後、これらのソフトウエア群を、自社製品への搭載のみならず、広く対外的に市場展開してまいります。

■長年蓄積した銀塩写真技術を生かし、デジタル画像処理にいち早く進出

当社は、一般写真、印刷、医療などの分野で、画像に関わる研究開発を積極的に推し進めてきました。たとえば、銀塩写真の分野では、わずか20～30ミクロン(1ミクロンは1000分の1ミリ)の薄膜に複雑な機能層をまとめ上げるとともに、より一層の高画質化を実現する独自の画像解析・評価技術を蓄積しています。

また、印刷、医療等の分野も含め、「Picture Taking」「Picture Making」「Picture Filing」という画像の撮影から保存・活用に関わる全てのノウハウを保有していることも当社の強みです。

当社は、こうした基盤技術とノウハウをベースに、いち早くデジタル・テクノロジーへの取り組みを開始。既に1970年代からは医療分野で、高精度な診断を可能にするデジタル画像処理の研究に着手、世界に先駆けてX線画像のデジタル化に成功し、1983年には画期的なデジタルX線画像診断システム「FCR(フジ・コンピューテッド・ラジオグラフィ)」を発売しました。

オリジナル画像

さらに、1986年からはカラー写真分野で、お客様が満足できるプリント仕上がりをめざしてデジタル画像処理の開発を進め、10年後の1996年に世界初のデジタルラボシステムを生み出しました。

「イメージ・インテリジェンス」は、これら各事業分野の研究開発で得た様々な技術、ノウハウを複合し、市場ごとに異なる画像ニーズに最適画像で応えることを可能にしたソフトウエア群です。

■「イメージ・インテリジェンス」を支える高度な解析技術と表現技術

「イメージ・インテリジェンス」は、アナログ時代には豊富な知識や経験をもつ専門家の判断や技術に頼っていたことを、コンピュータ画像処理に置き換えたものといえます。具体的には、画像が撮影された「状況」や「意図」を判定する“解析技術”と、目的に合わせて最適な画像に変換する“表現技術”で構成されます。

Image Intelligence

その場の雰囲気や感動を
イキイキと再現します

解析技術は、撮影光源やライティングの方向(順光・逆光)、露光量などの撮影条件に加え、被写体そのものを自動的に解析し、その撮影意図を推定します。最先端のコンピュータビジョン技術*を駆使すると同時に、当社が長年にわたり蓄積してきた膨大な画像データベースと写真設計技術を最大限に活用しています。

＊コンピュータビジョン技術：画像の中から被写体の意味を判断する技術。シリコンバレーの拠点を活用し、大学や研究機関との共同活動で得た顔認識技術、オブジェクト理解技術などを導入しています。

画像処理した最適画像

FCRによる医療画像処理

オリジナル画像

画像処理した最適画像

従来のX線診断では撮影部位に合わせてコントラストや濃度等が異なるフィルムを使用していましたが、FCRでは一つのタイプのフィルムでの撮影が可能になり、しかも鮮明な画像を得ることができます。

解析技術

顔の認識
光源の認識

顔認識技術で被写体の顔を見つけ出すと共に、白またはグレーのポイントから部屋全体の光源を推定します。これらより、光源はストロボを使っておらず、室内の明かりで逆光であるという撮影状況を自動解析します。

画像の解析データと、当社がこれまで蓄積した画像データベース等を基に、目的や用途、媒体に合わせた最適な画像に変換。

表現技術

ホワイトバランスを調整

よりシャープに粒状性をコントロール

ウェディングドレスのように白いものは白く、周囲は柔らかな雰囲気に表現し、頭上のティアラなどのシャープネスを増すことで、撮影時の臨場感を伝える画像に補正します。

一方、表現技術は、解析データを基に逆光補正など、そのシーンに合った補正を加え、どのような出力媒体（フィルム、印画紙、印刷用紙、液晶モニター等）にも最適な画像に変換する技術です。

このように、「イメージ・インテリジェンス」は撮影者の意図を推定し、撮影時の感動を再現する技術を組み込み、誰でもどこでも最適な画像を出力することができます。70年にわたり、映像に関わる分野でお客様の望む画像品質を徹底追究し、それを実現する経験と技術をもった富士フイルムならではの成果といえるでしょう。

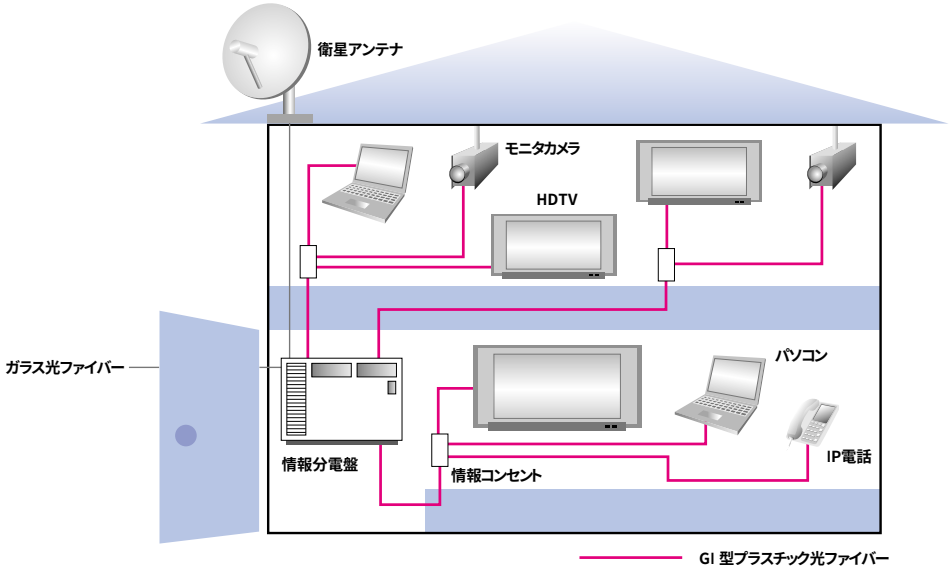
当社は今後、「イメージ・インテリジェンス」をネットワークサービス関連をはじめ多様なデジタル画像分野に展開するため、他社とのアライアンスも積極的に進めていく方針です。

HOT NEWS

次世代ホームネットワーク用に最適な画期的プラスチック光ファイバーを開発

富士フイルムは、来るべき超高速ネットワーク時代に対応し、家庭内ネットワーク用として、高速通信が可能なうえ、低コストで敷設工事の簡便性、安全性にも優れた新規「グレーデッドインデックス（GI）型プラスチック光ファイバー」の開発に世界で初めて成功しました。

将来のホームネットワーク予想図



■実用化のための多くの課題を克服

数年来、ADSLをはじめインターネットの高速化が急速に進み、一般家庭の軒先まで光通信の「幹線」といわれるガラス製光ファイバーが敷設されるようになっています。しかし、ガラス製光ファイバーは、加工や敷設工事が容易でないことやコストが高いなどの理由から、一般家庭内への敷設には不向きとされています。

新開発の光ファイバーは、斯界の世界的権威である慶應義塾大学・小池康博教授の新技術を元に共同開発を進め、当社が長年培ってきた光学設計技術と有機素材設計技術を駆使することで開発に成功したものです。将来増大する家庭での情報量に対応し、かつ家庭内で簡単・安全にご利用いただくための技術的諸課題を解決しました。

■家庭用を中心に産業用途にも

この光ファイバーは、ギガ（1ギガは10億bps/1bit per second：1秒当たりのbit数）以上の高速通信を可能とし、また低コストで大口径、かつ取扱いが簡単なプラスチック製でありながら、耐熱性・耐湿性などのタフネス性も兼ね備えています。ブロードバンド時代のホームネットワーク用に最適なのはもちろん、産業用の各種信号伝達用途にも幅広く応用できるものと大きな期待が寄せられています。

当社は、写真関連技術を追究してきた長年の歴史の中で、光学、化学をはじめとする先端技術と、製品化を実現する精密製造・加工・制御技術を得意とするユニークな企業であり、今後も関連領域で世界的に注目される画期的な新製品の創造に挑戦してまいります。

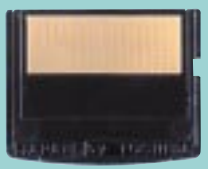
超小型のデジタルカメラ用記録メディア
xDピクチャーカード™

xD-Picture Card™

より一層のデジタルカメラの小型化と記録メディアの大容量化、あるいは一つの記録メディアを複数タイプのデジタルカメラで利用したいというニーズに応え、オリンパス光学工業(株)と共同開発しました。20.0mm×25.0mm×1.7mmという超小型ながら、将来的には8GBまで視野に入れた大容量化を計画しています。

別売のアダプターやカードリーダーを利用すれば、パソコン、プリンターと接続可能で、今後、多くのデジタルカメラの記録メディアとして採用されることが期待されます。

表面



背面

切手サイズ並の超小型化を実現

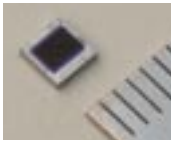
「xDピクチャーカード™」の採用でさらなる小型・軽量化を実現したデジタルカメラ「FinePix F402」

携帯モバイル市場に デジタル画像サービスを提供

当社がデジタルカメラ事業で蓄積した撮像技術・画像処理技術を活用し、モバイル市場向けに各種画像サービスを提供していることをご存じでしょうか。当社独自のキーデバイス「スーパーCCDハニカム」をモバイルカメラ用として携帯電話機メーカーへ供給。これまでにない高画質・高感度の画像を撮影できると好評を得ています。また、NTTドコモの画像配信サービス「i-shot」には、明るさ補正、肌色補正などを自動的に行う画像変換ソフトウェア「pixabase2(ピクサベース2)」が採用されています。

このほか、画像変換配信サービス「Keitai Picture」では携帯電話各メーカーの機種の表示に最適な画像表示を実現するなど、モバイル市場への新たな展開、拡大が進んでいます。

動きにも強い「スーパーCCDハニカム」



1/7型「スーパーCCDハニカム」。写真のスケールの単位は1ミリ

「スーパーCCDハニカム」搭載カメラ付携帯電話での撮影

「スーパーCCDハニカム」は、同一画素の従来型CCDと比べ、高感度、高画質な画像が得られます。また、全画素同時読み出し方式を採用しているため、動いている被写体でも歪みなく、鮮明に撮影することができます。

Photokina 2002

壮大なスケールのブースに充実した製品群やサービスを展示

「POWERED by FUJIFILM」をスローガンに掲げたブース入口。

ドイツのケルンメッセで開催された世界最大の写真・映像展示会「フォトキナ2002」で、当社は「POWERED by FUJIFILM」をスローガンに掲げ、“写真業界のリーダーであるFUJIFILMが、市場や顧客にパワーを与える”ことを世界にアピールしました。

今回のフォトキナで、当社はいつでも、どこでも気軽に写真を撮り、きれいなプリントが出来上がるという「ユビキタス・イメージング」を提案。写真店での“デジカメプリント”を推進するため、「フロンティア」を軸とするシステムや、独自に開発した廃棄物の出ないクリーンな「プリンピックス システム」のデモンストレーションを行い、多くの来場者に当社のデジカメプリントを体験していただきました。

デジタルカメラでは、「スーパーCCDハニカムIII」を搭載した超小型の「FinePix F402」、長時間高画質ムービー機能を備えた「FinePix M603」が好評で、また超小型ながら大容量記録が可能な新記録メディア「xDピクチャーカード™」も話題となりました。

実写デモで撮影し、「プリンピックス」でデジカメプリントを体験。

さらに、画像に関する長年の研究開発成果を集約した「イメージ・インテリジェンス」(P2-3参照)を紹介し、当社のデジタル画像処理ソフトウエア技術が、これからの写真の可能性を大きく広げてくれるものと期待されています。デジタル化の波で写真市場は急速に変化していますが、当社はビジネスに直結した製品・サービスを具体的に提供し、FUJIFILMこそ最も信頼できるビジネスパートナーであることを、世界の人々に強く印象づけることができました。

先進的なデジタル画像処理ソフトウエアを紹介した「イメージ・インテリジェンス」のコーナー。

当社の先進の製品やサービスを紹介するデモステージ。

デジタルカメラのコーナーでは来場者に実写デモを実施。

プロ用デジタルカメラ「FinePix S2 Pro」で撮影した
高画質画像を大サイズのプリントにして展示。

イングランドの名門サッカー クラブ チーム Manchester Unitedとスポンサー契約

Manchester United（マンチェスター ユナイテッド、以下MAN-U)は、デビッド・ベッカム選手をはじめ、世界的に著名な選手を有し、実力・人気ともに世界を代表するクラブチームの一つです。

今回の契約により当社は、MAN-Uのオフィシャル イメージング パートナーとして、同チームの所有する画像やその関連製品の全世界での独占供給権を獲得致しました。

MAN-Uの本拠地オールドトラッフォード(イングランド北西部)のスタジアムに隣接する博物館 Dream MuseumやTour Centreには毎年20万人以上のファンが訪れますが、当社はそこにMAN-Uの選手や試合のデジタル写真ライブラリーを閲覧できるタッチパネルスクリーンを設置、ファンが気に入った写真をその場で当社の高画質プリントに出力するサービスが始まっています。また、MAN-Uのグッズを現在販売している英国内外のアウトレット、新たに全世界90カ所に設置を進めている「レッドカフェ」や、インターネットのウェブサイトを通じて、世界中どこからでも写真をオーダー出来るような仕組みも計画しています。

このほか、オールドトラッフォード競技場へのサインボード掲出、MAN-Uグッズの開発、FUJIFILMとMAN-Uのダブルブランドでのフィルム、カメラといった写真関連製品の製造販売も企画中です。

Manchester United：通称「赤い悪魔(Red Devil)」と呼ばれる世界最大のサッカークラブ チームで、英国を中心に世界中に5,400万人のサポーターを有しています。イングランド プレミア リーグ発足以来7度優勝。クラブは企業体として組織化され、資金力・マーケティング力とも兼ね備えています。

マンチェスター ユナイテッドの公式試合をFUJIFILMマッチとしてPRしました。
選手左からリオ・ファーディナンド、デビッド・ベッカム、ルート・ファン・ニステルローイ

新製品

スーパーワイドコンパクト
FUJIFILM 35ミリ コンパクトカメラ

Silvi F2.8（シルヴィ・エフ・ニーハチ）

これまでにない多彩な新機能を盛り込み、満足できる写真が誰にでも簡単に撮れる、全く新しい発想のコンパクトカメラです。

超広角24mmからの2倍ズームを搭載し、これまで画面に入り切らなかった風景や建物もひろびろと写せます。また、明るいF＝2.8のレンズに加え、被写体との距離や明るさに合わせ光量を1/64まで制御できる“気配りフラッシュ”等との組合せで、人物も背景のライトアップされた夜景もきれいに撮れます。このほか、自分撮りで仲間や背景をひろびろと写せるセルフショット機能、右手でも左手でも撮影できるツインシャッターを搭載し、世界最小・最軽量*のコンパクトボディを実現しました。

＊35mm ズームコンパクトカメラ比較（2002年10月現在）

イメージキャラクターとして、カメラ好きタレントとしても有名な人気急上昇中の吉岡美穂さんを起用しています。

魔法のように、スリムにふくよかに大変身する！
イマジネーションモード撮影を搭載

写ルンです
ハリー・ポッター Flash27

前作に続き、大ヒットが予想されるハリー・ポッター映画の第2弾「ハリー・ポッターと秘密の部屋」の公開（11月23日）に合わせ、“イマジネーションモード”で、被写体をスリムにも、ふくよかにも撮れる、不思議でユーモラスな「写ルンです　ハリー・ポッター Flash27」を新発売しました。

イマジネーションモード（カバーを閉じた状態）は、本体を横にして撮影すればスリムに、縦にして撮ればふくよかに写るように設計されており、通常撮影モード（カバーを開けた状態）にすれば、通常の「写ルンです」としてお使いいただけます。これ1本で、楽しいパーティなどのイベントからスナップまで大活躍まちがいなしです。

コンパクトボディで高能力、簡単操作、超高画質
デジタルミニラボ フロンティア 340E

超高画質と、デジカメプリントなどのデジタルイメージングサービスメニューの充実により、大変ご好評をいただいているデジタルミニラボ「フロンティア」シリーズの新製品です。

「フロンティア340E」は、既発売のコンパクトタイプ「フロンティア330」とほぼ同じ設置面積(約1.2m²)ながら、新開発の高速・迅速処理技術を採用し、「フロンティア330」の約1.4倍に当たるLサイズ900枚/時(127mm幅ペーパー使用時)の処理能力を実現しました。また、操作画面を対話方式の視覚的にわかりやすいデザインとしたことや超高画質デジタル画像処理ソフトウエア「イメージ・インテリジェンス」の搭載により、不慣れなオペレーターの方でも簡単に、確実に、超高画質プリントが得られます。

「フロンティア340E」の発売により、スペースに制約のあるお店でも「フロンティア」の導入が一層、加速していくものと期待されます。

富士ゼロックス
カラー毎分13枚、モノクロ毎分24枚のデジタルカラー複合機
DocuCentre Color 240 CP

コピーとプリント機能を標準装備したデジタルカラー複合機の普及タイプで、ラインアップを強化しました。フルカラープリントに必要な4色各々について、独立したドラムを直列に並べ、一度に画像を生成するマイクロタンデムレーザーエンジンを搭載。さらに、紙に直接トナーを転写せず、中間転写体を介することで、用紙の搬送経路を短縮し、カラー毎分13枚という高速出力を実現しました。

定着にオイルを使わない独自のEAトナー(乳化重合凝集法トナー)を採用しており、ボールペンなどの書き込みや付箋紙などの貼付けが容易なほか、小さな文字をはっきり、黒文字や写真、グラフィクスもテカリやギラツキを抑えた自然の光沢で再現します。

TOPICS

大西会長、米国サウスカロライナ州より「パルメット勲章」を受章

当社会長、大西實は、このほど米国サウスカロライナ州より、米国およびサウスカロライナ州に対し、生涯にわたり顕著な貢献のあった人物に授与する最高位の栄誉章「パルメット勲章(The Order of the Palmetto)」を受章しました。

これは、富士フイルムがサウスカロライナ州グリーンウッドに生産・開発拠点(Fuji Photo Film, Inc.)を築き、同州の発展と地域社会に多大な貢献をしていることが高く評価されたものです。授与式は同州チャールストンで行われ、大西会長は受章への感謝とともに、「富士フイルムは、今後もサウスカロライナ州の良きコーポレートシチズンとして、たゆまぬ努力を続けてまいります」と挨拶しました。

写ルンです 世界中で10億本達成!

「写ルンです 10億本達成記念!フォトコンテスト」を実施

“いつでも、どこでも、誰にでも簡単に写真が楽しめる”をコンセプトに生まれたフジカラー「写ルンです」が、1986年7月の発売以来、本年11月で全世界累計出荷本数が10億本を達成*いたしました。

これを記念し、12月より実施する「写ルンです10億本達成記念!フォトコンテスト」は、レンズ付フィルムの特長である簡単・手軽な写真の楽しさを、より多くのお客様に実感していただく、楽しいコンテストです。(締切 2003年3月31日)

＊富士フイルムグループによるレンズ付フィルムの累計出荷本数

チェキ 国内累計出荷台数300万台突破!

「300万台突破キャンペーン」を展開

撮ったその場で高画質なカードサイズ写真が楽しめるインスタントカメラ「チェキ」。1998年11月の発売以来、大好評で、こちらも本年11月に国内出荷の累計が300万台を突破いたしました。

当社はこれを記念して、「チェキ」の最大の需要期である年末に、人気キャラクターの絵柄入りフィルムの発売や各種セールを実施し、併せて全国でテレビCMを放映。

製品の定量的な環境情報が分かる エコリーフ環境ラベル

富士フイルムは、フジカラー「写ルンです シンプルEye800／シンプルエース」シリーズの計5機種について、「エコリーフ環境ラベル」を作成し、第三者による検証等を経て情報公開しています。

■先進的な環境情報開示への取り組み

エコリーフ環境ラベルとは、経済産業省所管の(社)産業環境管理協会が本年6月から本格的に運用を始めたもので、LCA*1の手法を用い、製品の全ライフサイクルを通じての環境情報を定量的に表示・公開するものです。このラベルは、国際標準化機構(ISO)の類型では、現在、最も先進的な「タイプIII環境ラベル*2」に位置付けられます。

製品分野ごとに公開内容の諸基準を定める「製品分類別基準(PSC)制度」や第三者による「データ検証制度」などにより、開示情報の定量性・客観性・透明性が確保されているのが特徴です。この環境情報は、ある基準に従って合否判定するものではなく、客観的な情報の公開にとどめ、その評価はお客様に委ねられています。

＊1)LCA(ライフサイクルアセスメント)
資源採取から製造、物流、使用、廃棄・リサイクルまでの製品の全ライフサイクルを通じての環境負荷、資源消費負荷データを定量的に評価する方法です。代表的な指標として炭酸ガス(CO_2)発生量がよく用いられています。

＊2)タイプIII環境ラベル
タイプI環境ラベルには「エコマーク」があります。タイプII環境ラベルは会社ごとに基準を決めて個別に出しているものです。

■より積極的に環境情報の開示を推進

エコリーフ環境ラベルは、具体的には、製品の主な環境特性をわかりやすくまとめた「製品環境情報(PEAD)」とその定量的裏付けとなる2枚のデータシート(製品データシート、製品環境情報開示シート)で構成されます。この情報は、当社ホームページ(http://www.fujifilm.co.jp/)と産業環境管理協会のホームページ(http://www.jemai.or.jp/)でご覧いただけます。

富士フイルムは、環境により一層配慮した製品をご提供していくため、今後、フィルムカメラやデジタルカメラなどでエコリーフ環境ラベルによる情報公開を積極的に推進してまいります。

製品環境情報
Product Environmental Aspects Declaration

ECO LEAF 製品環境情報
No. AC-02-010

レンズ付フィルム

FUJIFILM
I&I-Imaging & Information
http://www.fujifilm.co.jp

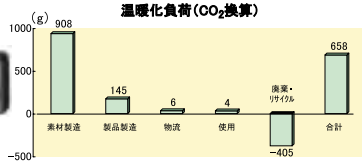
富士写真フイルム株式会社
お客様コミュニケーションセンター
TEL(03)3406-2981

フジカラー 写ルンです シンプルEye 800 Flash27

フォーマット	：１３５サイズフィルム内蔵
機能	：フラッシュ付
撮影枚数	：２７枚撮り
フィルム感度	：ＩＳＯ８００

主な環境負荷（ライフサイクル合計）

温暖化負荷(CO_2換算)	658g
酸性化負荷(SO_2換算)	1.3g
エネルギー消費量	11.2MJ



※ 撮影済みフィルムのDPEに関する環境負荷は、上記データには含まれていません。

(注) 詳しくは、製品環境情報開示シート(PEIDS)、製品データシートをご覧ください。
データ算出のための統一基準は、製品分類別基準[PSC]をご参照ください。

【その他環境関連情報】

- 本製品はエコマーク認定商品です。
  (再生材料を使用したプラスチック製品)
- 本製品は、インバース・マニュファクチャリングを実現した「写ルンです」循環生産工場でつくられています。
- この「レンズ付フィルム循環生産工場の開発」は「第47回大河内記念技術賞」を受賞しています。
- 本製品はISO14001認定取得工場で生産されています。

財務諸表

平成14年4月1日～平成14年9月30日

単独

■貸借対照表

単位:百万円(単位未満切り捨て)

科目	平成14年度中間期	平成13年度中間期
(資産の部)		
流動資産	559,263	585,142
固定資産	1,116,909	1,056,963
資産合計	**1,676,173**	**1,642,105**
(負債の部)		
流動負債	176,202	179,262
固定負債	49,700	50,307
負債合計	**225,903**	**229,570**
(資本の部)		
資本金	40,363	40,363
資本剰余金	58,980	58,980
利益剰余金	1,340,464	1,300,892
その他の剰余金等	10,463	12,300
資本合計	**1,450,270**	**1,412,535**
負債及び資本合計	**1,676,173**	**1,642,105**

■損益計算書

単位:百万円(単位未満切り捨て)

科目	平成14年度中間期	平成13年度中間期
売上高	390,160	424,202
営業利益	38,820	45,927
経常利益	41,474	46,409
税引前中間利益	35,482	43,039
中間利益	23,197	27,832

連結

■貸借対照表

単位：百万円

科目	平成14年度中間期	平成13年度中間期
(資産の部)		
流動資産	1,390,833	1,375,987
投資及び長期債権	428,756	405,298
有形固定資産及びその他の資産	1,103,022	1,048,682
資産合計	**2,922,611**	**2,829,967**
(負債の部)		
流動負債	705,546	702,145
固定負債	392,367	346,890
少数株主持分	131,892	124,807
(資本の部)		
資本金	40,363	40,363
資本剰余金	68,135	68,135
利益剰余金	1,644,669	1,589,784
その他の剰余金等	△ 60,361	△ 42,157
資本合計	**1,692,806**	**1,656,125**
負債及び資本合計	**2,922,611**	**2,829,967**

■損益計算書

単位：百万円

科目	平成14年度中間期	平成13年度中間期
売上高	1,249,435	1,171,631
営業利益	95,892	89,049
税引前利益	77,908	89,664
当期純利益	33,610	46,414

注) 単独損益計算書におきまして、従来から「販売費及び一般管理費」に含めて処理してきました販売奨励金等の中には、最近の市場における価格競争の激化によって支出が恒常化したことに伴い、その取引実態が売上割戻しまたは売上値引きの性格を帯び、実質的な販売価格の一部となる傾向が顕著になってきているものがあります。このため、当中間期より、営業活動に基づく損益の区分をより適切に表示するため、これらの取引額について、販売費に計上する方法から売上高より控除する方法に変更いたしました。この変更により、従来の方法に比べ、売上高は31,033百万円減少いたしますが、販売費及び一般管理費も同額減少するため、営業利益、経常利益に与える影響はありません。

株主と株式の概況

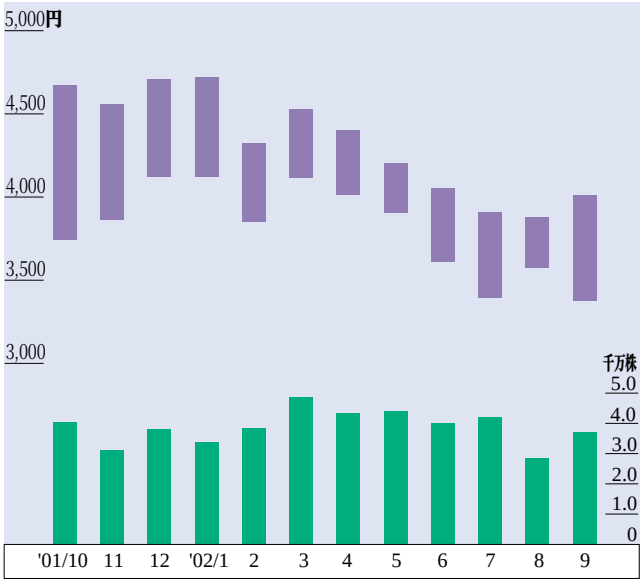
■株式の状況

	平成14年度中間期	平成13年度中間期
株　主　数	29,620名	27,087名
発行済株式数	514,626千株	514,626千株

■所有者別分布（株式数と比率）

	平成14年度中間期	平成13年度中間期
金融機関	246,402千株(47.9%)	249,032千株(48.4%)
証券会社	3,346千株(0.6%)	2,298千株(0.4%)
その他法人	20,853千株(4.1%)	21,056千株(4.1%)
個人・その他	48,439千株(9.4%)	44,706千株(8.7%)
政府・地方公共団体	0千株(0.0%)	0千株(0.0%)
外国法人等	195,586千株(38.0%)	197,534千株(38.4%)
計	514,626千株(100%)	514,626千株(100%)

■株価（高値・安値）及び株式売買高の推移



株価及び株式売買高は、東京証券取引所におけるものです。

■ 株価
■ 株式売買高

会社概要

- 設　　立　昭和9年1月20日
- 資　本　金　40,363百万円（平成14年9月30日現在）
- 従業員数　9,829名
- 本　　社　神奈川県南足柄市中沼210番地
- 東京本社　東京都港区西麻布二丁目26番30号
- 大阪支社　大阪市中央区備後町三丁目5番11号

インターネットで当社に関する情報がご覧になれます。
URL http://www.fujifilm.co.jp/

株主メモ

- 決　算　期　3月31日
- 定時株主総会　6月下旬
- 公告掲載新聞　日本経済新聞
- 名義書換代理人　UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱所

UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
東京都江東区東砂 7-10-11 〒137-8081

照会先
株式の各種お手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行の電話およびインターネットで24時間承っております。
受付フリーダイヤル 0120-24-4479（本店証券代行部）
0120-68-4479（大阪支店証券代行部）　自動応答
URL http://www.ufjtrustbank.co.jp/

- 同取次所

UFJ信託銀行株式会社　全国各支店
野村證券株式会社　全国本・支店

（ご案内）　当社は平成14年3月期より決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社のホームページ《http://www.fujifilm.co.jp/》に掲載しております。

○平成13年10月1日の改正商法施行に伴い、当社は単元株制度を採用致しております。従来どおり、（東京）証券取引所における売買は1,000株の整数倍で行われております。また、1,000株未満の株式についても、従来どおり買取請求を受け付けております。なお、保管振替制度ご利用の株主さまは、お取引の証券会社等へお問い合せください。

FUJIFILM
富士写真フイルム株式会社
〒106-8620 東京都港区西麻布2-26-30　電話(03)3406-2111(代表)

FUJIFILM
I&I－Imaging & Information

ひろびろ撮れる超広角24mm
明るいレンズF2.8
世界最小・最軽量※
※35mmズームコンパクトカメラ比較（2002年10月現在）

新登場

スーパーワイドコンパクト
Silvi F2.8
メーカー希望小売価格 40,000円（税別）